

研修員's VOICE

Vol. 3

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



再生可能エネルギー研究所にて

氏名: Mr. YUSUF Daud Ekalaya (ダウさん)

国名: インドネシア 

コース名: 島嶼国における再生可能エネルギー導入
及びディーゼル発電整備の最適運用

滞在期間: 2017年6月21日～2017年7月29日

インドネシアってどんな国ですか？

東南アジア南部に位置し、1万7千以上の島々を持つ世界最大の島嶼国です。面積は約190万km²、人口は約2億6千万人(世界第4位)、国民の88%はイスラム教徒で、世界一のイスラム人口国です。一方で300を超える異なる言語や宗教を持つ民族が調和して生活しており、国のモットーである“Bhinneka Tunggal Ika”は“多様性の中の統一”を意味します。

赤道直下の熱帯性気候で、ビーチや森林、サバンナに多様な動植物を含む美しい風景があります。



バリ島の祭りの様子



沖縄エネテックでの研修

JICAでの研修目的は？

主な目的は、日本の電気システムの一連のプロセスを学ぶことです。具体的には再生可能エネルギーの開発、特に遠隔地にあるディーゼル発電機の運転パターン(ハイブリッドシステム)等を沖縄エネテックで学んでいます。

私は国立電力公社の企業企画部に所属していますが、帰国後には、遠隔地に既存するディーゼル発電機と組合わせたハイブリッドシステムの太陽光発電を計画したいと思います。

日本で印象に残っていることは？

沖縄の美しいビーチや水族館もとてもきれいで印象に残っていますが、福島再生可能エネルギー研究所にて様々な種類の太陽光発電施設やインバータ設備を見学したことは、研修内容を理解する上で非常に役立ちました。また、日本に一つしかない、電磁波試験施設である電波暗室を見学できたことはとても素晴らしいです。



電波暗室の見学